

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 96

2011年2月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

食の原点にふれて 里山の美味しさを！

親子農業体験講座
一般参加者 清水洋子

(一年の成果)
そば打ち体験 慎重に！、一生懸命切る

十二月四日待ちに待った蕎麦打ちの日です。手をかけて育ててきた私たちの蕎麦を、ようやく食べられるのです。収穫したものを食べる日は、やはり格別です。子どもたちも朝から張り切っています。

今日は朝からよい天気。蕎麦道場からいらつしゃった先生方のご指導の下、手を洗って、いよいよ蕎麦打ちのスタートです。ボールに粉を入れ、水を少しずつ加えて、満遍なく混ぜていきます。一生懸命手伝う二男の鼻の頭には、頑張った証(白い粉)がついていて、とてもいい顔をしていました。

先生がテーパーを回し、コツを教えてくださいます。さすが先生、手つきも技もすばらしく、子どもたちから、「すごい」と、歓声が上がります。「おいしくなれ！」と、願いを込めて、私たちも順番にこねていきます。それからが大変。丸く薄く延ばしていくのですが、慣れない上に外での作業の為、風が吹いて、蕎麦がみるみるひび割れ状態に。なかなか先生のように素早く、上手くはいきません。悪戦苦闘の末、そっと折り畳み、蕎麦包丁で切っていきます。子どもたちも順番に切り、太さはバラバラですが、私たちの蕎麦が出来上がりました。これで終わりかと思つたらもう一回分蕎麦打ちをするということで、また最初から作業開始。子どもたちは満足してしまつたのか遊びに行つてしまいました。今度は二度目だし、子どもたちの邪魔も入らない為、スムーズに作る事が出来ました。

いよいよ蕎麦を茹でます。なんと、私たちが一番に呼ばれました。茹であがった蕎麦は、短くて、太さもバラバラでしたが、初めて作った蕎麦の味は、愛情がたっぷり詰まっています、それはもう最高でした。同じそば粉から出来ているにも関わらず、テーパーを回っている食べ比べてみると、みんな味が違うことにびっくりしました。そして最後は先生の蕎麦が振舞われました。長さもあり、コシがしっかりとした、美味しい蕎麦でした。

子どもたちに、自然と触れ合う機会を作りたいと参加した農業体験。親子共々、とても貴重な体験が出来ました。百聞は一見にしかず。自然を大切に作る気持ちが育まれました。一年間、本当にありがとうございました。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



巨木リサーチ2事業報告

松本頼王

筑波山でのカエデ類の見分け方の研修

筑波山自然研究路での「カエデ類の見分け方」研修は今年度四回目の見学研修です。天候の関係で三度も日程変更になりましたが、三度目の正直で、好天に恵まれ素晴らしい研修となりました。

十一月四日（木）に牛久市役所ボランティアセンター前を七時四十分に出発。参加者十名は三台の自家用車に分乗してつつじヶ丘をめざした。

コースはつつじヶ丘より女体山駅まではロープウェイ、その先は徒歩にて御幸ヶ原、南周りの自然研究路一周、御幸ヶ原、女体山頂上、ロープウェイ女体山駅のコースで所要時間は休憩・観察・昼食時間を含めて、二時間程度。ロープウェイからの眺望は素晴らしく眼下には初期の紅葉がみごとでした。また南遠望には東京スカイツリーが見えました。筑波山は美しい姿から富士山とも対比され、「西の富士、東の筑波」と並び称されます。

また筑波山は地質や歴史についても学ぶことが出来ます。山頂付近は、斑れい岩と呼ばれる地下でマグマが冷えて固まった岩で覆われています。斑れい岩は特定の方向に割れ目が出てくるのが特徴です。その上、固く風化に強いので、山頂付近には奇岩が多いのです。巨大な石が今にも転げ落ちて、あの武蔵坊弁慶さえも七回戻ると言われた「弁慶七戻り」や間宮海峡を発見した間宮林蔵（つくばみらい市出身）が立身出世を祈願したと言われる「立身石」やヒキガエルの形に見える「ガマ石」があります。

筑波山は古来信仰の山で、万葉集にも二十五首登場し、富士山の十三首を上回ります。またブナ林があり南斜面に大木が多く、尾根筋に集中的に分布しています。

今回の筑波山自然研究路でのカエデ類観察は渡辺さんの丁寧な説明により、皆さん真剣に観察しました。特にウリハダカエデとチドリノキの紅葉がすばらしく印象に残りました。チドリノキはとてもカエデの仲間とは思えませんでした。

筑波山の植物リストにある十種のカエデ類のうち、イロハモミジ・ウリハダカエデ・オオモミジ・カジカエデ・チドリノキと落葉のウリカエデは確認できましたが、他のイタヤカエデ・イタヤメイゲツ・ハウチワカエデ・ヒトツバカエデは見かけませんでした。また昨年の五月三日このコースではニリンソウ（二輪草）の花、イチリンソウ（一輪草）の花も見えました。カタクリ（片栗）の花の群生地があり、春にはきれいな花を咲かせますが、時期が遅いため確認できませんでした。機会があればまたチャレンジしたいものです。



ウリハダカエデ等を見上げる著者たち

戸塚 10.11.4



あやめ受託事業報告
佐藤 輝雄

筑波山「ブナとガマと岩と」の展示見学報告

今回はアヤマ園の活動がないため研修会の報告とします。

昨年、十二月十四日、アヤマ園受託事業のメンバーのTさんのはからいで、十人のメンバーで茨城県自然博物館で開催された、「筑波山「ブナとガマと岩と」の展示会に行ってきました。現地では自然博物館の担当の方、三名から詳細にわたる説明を受け、あらためて筑波山の認識を広げることができました。

展示内容は 筑波山とはどんな山？ 筑波山の四季 筑波山の成り立ち 筑波山の動物 筑波山の植物 筑波山と人間との関わり 筑波山の総合調査報告、と六項目のテーマにわかれた内容でした。詳細については後述したいと思います。

皆さん筑

波山の標高は何メートルか？私には、八七六mと覚えていました。しかし、今は八七七mに変わっています。これは登山者から最高点（一等三角点）



筑波山の地質と岩石について説明を受ける

より周囲の岩が高いと指摘があり、国土地理院が調査したところ八七七mに訂正されたとのことです（平成十一年十一月）。筑波山は約二億年前は海の底で砂・泥の互層でしたが、約七五〇〇万年前にマグマ（班れい岩）の時代、約六〇〇〇万年前にマグマ（花崗岩）の時代、約五〇〇〇万年前に隆起して地表に露出して誕生したようです。

私も知りませんでした。筑波山の真下にトンネルがあることが。

これは、霞ヶ浦用水事業によつて、一九九六年に筑波山の真下に用水路を完成し、霞ヶ浦の水を霞ヶ浦揚水機場（かすみがうら市）から桜川市椎尾にある「つくしこ（南椎尾調整池）」まで送り込んでいくようです。この用水は県西地区の灌漑に使用されます。

このトンネル工事の際に掘り出された岩で、先んできた班れい岩の中に花崗岩のマグマが入り込んでいたということがわかりました。

また、筑波山の奇岩（弁慶七戻り・大仏岩・母の胎内くぐり等）はどうしてできたのか、これらの奇岩は班れい岩でできていますが、岩は堅く風化に強いと、周囲の土砂が浸食されて巨岩だけが残ったためと説明がありました。

筑波山の植生ですが、冷温帯にあたる山頂付近はブナ林、山腹にはアカガシ・モミ林、暖温帯にあたる山麓にはスダジイ林が見られ、その他に植林されたスギ・アカマツ・コナラ等の植生が見られます。

山頂近くのブナ林を詳細に調査した結果を教えてくださいました。筑波山には全部で七千個体が

ありその結果、ブナは標高五五〇mより高い尾根上に生育 衰退したブナはほとんどなく比較的健全 直径一〇cm以下の個体が急激に減少し、後継樹が見られない等です。

牛久自然観察の森の大先輩であるTさんが所属する「つくば環境フォーラム」「森林総合研究所」などの協力で全数調査したとのこと。

今はブナ林を守る活動がおこなわれていますが、なかなかブナの実が発芽せず苗木生産がうまくいかないのが現状のようです。先日セミナーで知ったことですがナラ枯れ病にはブナは強いようです。

筑波山の動物としてはイノシシ以外サル・シカ等は見られなく、平野部に孤立した山系のためかと言われています。その他、筑波山に生息する動物物の展示がたくさんありました。あらためて筑波山を知る良い機会でした。

今回は三台の車に便乗させて頂きました。車を提供して頂いた方、ありがとうございました。



筑波山周辺の植生について説明を受ける



雑木林応援隊
竹越 敏雄

応援隊「炭焼き公開講座」開催

・実施日：一月九日・場所：梅林奥炭屋横
参加者：一般九名

二〇一〇年度活動計画の一環として、恒例の「炭焼き講座」を実施しました。三連休を活用し初日は、本窯で今年度二回目の炭焼きです。昨年九月に竹炭を焼き、その炭出しに続いて新たに真竹の炭材を入れ炭焼きを行いました。

二日目は、「広報うしく」で呼びかけ一般募集した方を対象とした「炭焼き公開講座」を実施。

九時集合でスタート、今回は余裕で一人一基のオイル缶炭窯で、真竹をそのまま炭材として炭焼にチャレンジ。

炭材をオイル缶炭窯に詰め込む作業から始まり、窯の設置、そして火を付け、イザ炭焼き作業の開始。

九個のオイル缶炭窯から出る煙は圧巻です。冬の日だまりの中、最初は冬の朝らしいく厳しい寒さでしたが、十時を廻ると日差しも暖かく、



いい炭が焼き上がりました

窯の火力も高くなり心地よい日向ぼっこ気分。

今回の参加者は、火の扱いが上手なのか、昼前には、殆んどの方の窯の煙が、透明になり窯閉めモードに入りました。

昼食は、雑木林応援隊「森のレストラン雑木林亭」の具沢山の味噌汁や漬物などしたつづみながらワイワイガヤガヤ。参加して下さった方々と交流を深めました。

食後には、全てのオイル缶炭窯も焼き上がって、消火態勢に入る。そして窯開け迄の時間を利用して、

今度はお花炭の制作。空き缶に、松ぼっくり・瓢箪・アメリカフウの実・蓮根などを、空き缶に入れ、たき火の中へ。四五分で焼き上がります。自宅の魚焼きグリルでも焼けますよ！ 皆さんもチャレンジされればいかがですか？奇麗なお花の炭が出来ます。

三時には、皆さん各自が、焼かれたオイル缶炭窯の窯開け。自分で、一から焼き上げた竹炭に感動・感激されました。そのあと、大事に袋詰めされ、お土産に本炭窯で焼いた炭も持って帰られ、お正月明けのひと時を十分満喫され散会。

本窯の炭焼きも、散会後も続けて燃やし夕方四時頃には、窯の焚口はレンガ一個分を開けて、仮閉めをして本日の活動は終了。

翌朝、炭窯の煙がほぼ透明になり、完全に窯閉じをして、今回の炭焼きは全て終了。出来具合は次回の炭焼きまでお預けです。さてどんな竹炭ができていますか結果が楽しみです。



里山自然観察隊
平塚 芳雄

モニタリングサイト1000

里地調査について

今月会報での報告を予定していた一月八日実施予定の一月度モニタリングサイト1000里地調査が都合で延期となりましたので、今回は「モニタリングサイト1000里地調査」について少し詳しくその目的・内容及び私達の活動の概要をお知らせします。

「モニタリングサイト1000」とは環境省生物多様性センターが平成十五年度から開始した事業で、日本全国に約千ヶ所のサイト(調査地)を設定し、百年間の長期にわたりモニタリング調査を実施することで生態系の異変を早期に把握して生物多様性の保全に資する迅速な対策に結び付けていこうとするもの。調査項目は植物相、鳥類、水環境、中・大型哺乳類、カヤネズミ、カエル類、チョウ類、ホタル類、人為的インパクトの九項目。

観察隊が参加しようとしている「植物相」調査はその地域に生育する植物相(植物種のリスト)



土手の草の名を調べ記録 本田10.12.1

を長期間にわたりモニタリングし、それを通じて地域の生態系の特徴を把握するとともに 開発や管理放棄による環境の変化や 外来種の侵入の程度などを把握することを目的としている。

観察隊はモニタリング1000のサイト(調査地)としての参加登録は未だですが、調査活動は生物多様性センターの基準・ルールに従い実施しています。

観察隊がこの調査を開始した理由には現在の郷土の自然環境の変化があります。都市化が進み緑が減少。市内の山林面積の割合は二十二%に大きく減少。数少なくなった巨木も伐採され、住宅街の周囲に残っていた斜面林も次第に減少傾向です。

私達が行っている調査活動の概要ですが、調査地は市内城中町。古墳や貝塚があり古くから人間が住み、中世・近世には城が築かれ陣屋が置かれた歴史と牛久沼の水辺や斜面林が残る自然環境に恵まれた所です。

調査地はここに設定した約三キロメートルのコース。毎月一回観察隊メンバー五、六名で午前九時から十二時三十分までの三時間半の予定で実施。しかし何時も四時間以上掛ってしまう。

調査方法は調査ルートで確認された草本植物(種子植物とシダ植物)について植物の種名と有性繁殖器官の状態(蕾・花・実・胞子)を記録する。

この調査における一番の課題は植物種の同定の難しさ。知識不足もあり、調査に時間が掛かる。事後の調査記録の整理・分析にも未だ十分な時間をかけられないでいる。

今後、メンバーの植物に関する知識、能力を高め推進体制を整えねばと考えています。



公開里山セミナー報告

石神 良二

盛況だった里山セミナー

「ナラ枯れの原因と防止対策について」
去る一月十五日(土)、本年度二回目となる本会全体事業「里山セミナー」が、ひたち野リフレに於いて開催されました。

今回は、独立行政法人 森林総合研究所 昆虫領域 領域長の牧野俊一先生をお招きし、現在全国的に話題となっている「ナラ枯れ」の現状とその対策等についてのお話をいただき議論を深めることができました。

日本の里山の主な構成樹種である、ナラ類やシイ・カシ類の大量枯死の地域が広がりつつある現状から、参加者の問題意識も高く活発な意見交換が行われました。

つぎに、内容の概略を報告いたします。

ナラ枯れとその現状

・「ナラ枯れ」とは

カシノナガキクイムシ(以下カイナガと略記)が病原菌を伝播することで起こる樹木の伝染病の流行のこと、

一九八〇年代末以降日本各地でナラ類やシイ・カシ類の樹木の枯死が発生している。

・「ナラ枯れ」の発生地帯



熱心に講義に聞き入る参加者の皆さん 坂

枯死木や生立木へのカシナガの穿孔が確認された地域は、現在のところ三〇府県に及んでいる。茨城県では確認されていない。

・「ナラ枯れ」の病原菌

この菌には定まった和名がまだないが、ラファエレア・クエルキボラという学名をもつ糸状菌でいわゆるカビである。

・病原菌とカシナガの関係

病原菌はカシナガによって枯死木から持ち出され、健全な樹木の組織の中に持ち込まれることが、調査の結果わかっていく。

・感染木が枯れるわけ

病原菌は、雌のカシナガの胞子貯蔵器官に入った状態で樹幹内に持ち込まれ、菌糸が生きた細胞から栄養を吸収する。

ナラ枯れと里山林の管理

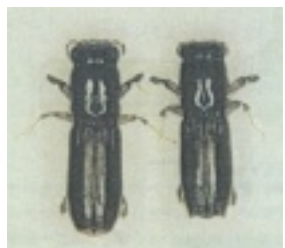
・被害を受け易い大径木
カシナガは、高年齢の大径木で好んで繁殖する。

本県のように被害の無い地域でも、今後里山林の高齢化、大径木化は、この甲虫の繁殖に適した状態をつくりだすことになるので、管理上対応策を考える必要がある。

・萌芽更新をすすめる

カシナガの穿孔の少ない小径木で構成される低林に戻していくために大径木の伐採をすすめる。

以上がセミナー内容の要旨ですが、詳細について知りたい方は、牛久自然観察の森までお問い合わせください。



カシノナガキクイムシ
メス成虫・左(4.7mm)
オス成虫・右(4.5mm)



質問にお応えする牧野先生



「牛久は歴史の宝庫」

坂 弘毅

「犬も歩けば棒に当たる」という諺に懐かしく思う方も居るかと思えます。これはいろはカルタに出てくる一枚です。

健康のため毎日散歩する方が多くなっていきます。しかし、市内を漫然と歩くのではなく、何か目標をもって歩いて見ると、新しい発見がある筈です。更にそのエリアを深く知るためには、繰り返し歩いてみる事です。ただし、目標は歴史なのか、自然景観なのか、町並みなのか等など、目標を明確にして行動しましょう。

そして、歩いていて見つかった事実をデジタルに納め、その事実を検証する事です。何故、そこにあるのか、いつ頃からののか、歴史的事実・真実を明らかにすることで、散歩する楽しみは倍増します。出来ればこの集めた情報を整理して、地図や紀行文などに出来れば最高です。明治十四年陸軍省測地部が作った牛久村という地図があります。この地図は現在の地図に近い精巧なもので、当時の地勢が分かります。その地図と現代の地勢や町並みの変化を比べ、歩いてみる事です。

この地図はつくばの国土地理院に行くとい手できます。こんな古い地図ではなくても、市街地の地図、二万五千分の一の地図、更にはスマートフォンで、グーグルマップをインストールして歩いてみるのも新しい楽しみですよ。



昨年十二月、シャトーカミヤの周辺を五回ほど繰り返し歩き、次々と新たな発見をみました。石碑に彫り込まれた文字の検証、その史実を関係者にインタビュー、インターネットの検索等から、これまでにない新たな事実が明らかにすることが出来ました。そして、シャトーカミヤも神谷傳兵衛も偉大な歴史の証人であった事が分かりました。いま、この手法を使って、牛久宿や田宮界隈を風漬しに調べています。すでに幾つかの新たな事実が浮かび上がり、牛久の歴史の深さと共に楽しみが倍増しています。



皆さんデジタルカメラを活用しましょう。気付いたらすぐデジタルカメラでメモ。そして帰ったら疑問点をすぐ確認。現在はインターネットという文明の利器があります。そして歴史の代弁者になってみませんか。

運営委員会からのお知らせ

坂 弘毅

牛久市広報三月一日号掲載

公募記事です

うしく里山の会合同説明会

「里山で爽やかな汗をかきませんか！里山の活動説明会を行います」

・日時 平成二十三年四月三日(日)

九時～正午

・場所 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
・内容

観察の森周辺の里山で生物多様性豊かな森づくり。下草刈り、落ち葉掃き等

NPO法人うしく里山の会の活動説明及び会員としての活動、ボランティア活動の参加方法など。

・対象 特に団塊の世代の皆さん

・参加費 無料

参加される方は、牛久自然観察の森ネイチャーセンターにお出でください。

・問い合わせ うしく里山の会事務局

029-874-660

今年もインフルエンザの季節になりました

いやな花粉も飛び始めます。会員の皆さん、健康管理に充分お気を付け下さい。





牛久自然観察の森だより
チーフコーディネーター 齊藤 孝

第二期指定管理者に決定

昨年九月に申請を行った「第二期牛久自然観察の森指定管理者事業」について、平成二十二年牛久市議会第四回定例会にて議決が行われ、本会が第一期に引き続き指定管理者に選ばれました。

第二期指定管理者の指定期間は平成二十三年四月一日から平成二十八年三月三十一日までの五年間となります。

今回の申請では、管理運営の基本方針として次の五つの目標を掲げました。

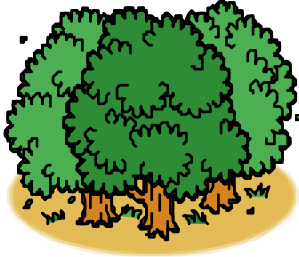
牛久市の環境基本計画における将来像「湖沼や里山などの自然と人々が共生しやすらぎがあり住みたくなるまち牛久市」を具現化するための拠点施設を目指す。

牛久周辺の自然と人が調和した美しい環境を保全し未来に引き継ぐため、老若男女が集い活気溢れる人材育成及び生涯学習の場を目指す。

市民・利用者の様々なニーズを満たすホスピタリティ（もてなしの心）を持った良質な行政サービス提供の場を目指す。

県内外から多数の来園者を誘致する事で、牛久市の魅力や付加価値を高め、地域文化及び経済活性化への貢献を目指す。

環境保全や調査などで地域、外部団体、行政、学校、研究機関との協働を行い、効率的な運営を目指す。



これら五つの内、に掲げた「ホスピタリティ」というテーマは、前回（五年前）の申請書には記載が無く、今回初めてその重要性を目標に掲げることになりました。（三月号に続く）



うしく里山の会全体事業
「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」
参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

二月の活動日時

四日（金）午前九時～十一時半
二十日（日）午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
一階倉庫前

（予約不要／荒天時は中止）

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長ズボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6600 担当：石神

今月の古木・希少木
No.46
ユーカリノキ

ユーカリ類（フトモモ科）は、常緑の低木～高木で八〇〇種を超えるといわれ、オーストラリアを中心にその周辺地域に自生している。成長の早い種もあり、建築・パルプ用、燃料用として温帯から熱帯まで広く植林されている。日本には、明治初期に移入され関東以西の公園や庭園に植えられている。その葉はコアラの食物として有名であるが、食べるのは一二種前後と限られている。

牛久市内では、写真の久野町茨城農芸学院（正門左手前）にあるのが最大で、幹周二・三四m、樹高二六・〇m。次いで城中町（三中左手交差点からあやめ園へ向かって左側）にあるのが幹周一・三〇m。身近には市役所裏近隣公園にあります。

この木は姉妹都市オーストラリアのオレンジ市（ニューサウスウェールズ州）から贈られたものです。まだ大きくはないがユーカリの特色である縦に剥離した樹皮、垂れ気味の細長い青灰色の葉などの特色を楽しめます。落葉を拾って長いのを測ってみると、幅一・三cm、長さ三〇cmあり、やや湾曲した形は細身の鎌刃を思わせます。

しかし、姿・樹冠・木肌など最もユーカリらしいのは、やはり写真の木です。鎌倉街道を通る際は、立寄られるようお勧めします。（羽賀正雄）



ユーカリノキ
（英名ブルー・ガム）
葉は精油分を含み揉むと芳香がある
戸塚 10.6.12

2011年2月NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1 森の畑 9:30畑	2	3	4 エコアップ作戦 9:00NC	5 親子農業体験講座 9:00NC
6	7 (休園日)	8 森の畑 9:30畑	9	10	11 建国記念の日	12 里山自然観察隊 (エコアップ 里地調査) 9:00得月院P 親子農業体験講座 9:00NC (会報等原稿不切)
13 雑木林応援隊 9:00炭屋	14 (休園日) 雑木林応援隊 9:00炭屋	15 (休園日)	16	17	18	19
20 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC エコアップ作戦 13:00NC	21 (休園日)	22 森の畑 9:30畑 (会報原稿確認)	23	24	25	26 チーム'街路樹20(受 13:00市ボランティアC (交流会) 巨木リサーチ2(特) 9:00市役所玄関前
27 雑木林応援隊 9:00炭屋 会報発送 13:00NC	28 (休園日)					

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページのお知らせ欄)をご確認ください。

〔凡例〕

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場の畑
コジユケイ: 牛久自然観察の森コジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア
市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受託事業
(特): 特別事業



編集後記

先日、NHKのテレビを見ていたら、津軽海峡を渡る「ヒヨドリ」の記録を放送していました。夏は北海道にすんでいる「ヒヨドリ」は、冬になると餌を求めて青森側に渡るとのことです。渡りを始めるときは天敵の「ハヤブサ」や「カモメ」に襲われるため、二千羽近くの集団で海面スレスレに飛びます。

ハヤブサは集団で飛んでいる鳥には狙いが定まらない(混乱すること。海面スレスレだと急降下して海面に激突してしまう等、ヒヨドリはわかっているのです。渡り始めたときに「ハヤブサ」が飛来すると一斉に北海道側に戻る。この繰り返しでした。意を決して渡り始めると今度は津軽海峡の3mを越える荒波にのまれそうです。まさに命がけの渡りでした。

「ヒヨドリ」は有害鳥として法律によって殺される運命にもあります。

家の庭の柿の木の熟した実を、メジロ等の小鳥が美味しそうについばんでいると、そこにあの「ヒヨドリ」がやってきて小鳥は追い出されてしまいます。

私は、にくき「ヒヨドリ」として追い払っていましたが、この放送を見てからは「ヒヨドリ」を見る目が違ってきました。もちろん牛久の「ヒヨドリ」は苦勞して渡ってきた鳥とは違うでしょうがテレビを見てから優しく見守ることにしました。

私は知ることによって、追い払いたくも見守りたくもなる勝手な人間だなと、思わされたテレビの内容でした。皆さんはいかがですか。

(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2012年2月号の発送は2月27日(日)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしくお願いたします。